

特別職報酬等審議会 会議概要

日 時：令和5年7月14日（金） 午後2時から3時40分

場 所：市役所3階大会議室1

出席者：審議会委員：9名出席（1名欠席）

市 北畑総務部長、山川総務部次長兼総務課長、
小虎総務課課長補佐、大森総務課職員係長

<発言概要>

- 特別職の給与の位置付けは。
- ➡ 活動に対する対価という考えである。一般職のような生活給という位置づけではない。
- 県内自治体の中での財政比較があってもいいのではないか。
- 今回の審議する案件は、報酬と期末手当だけなのか。
- ➡ そのとおりである。
- 今後の財政見通しはどのようになるのか。
- ➡ 経常収支比率は県下都市で一番悪い状況である。すぐに改善するという事は考えられない。
- 報酬を見直した自治体（笠岡、井原、総社など）ではどういった理由で改定したのか。
- ➡ おおむね議員の成り手不足、処遇の改善という考え方に立っている。また、総社市では、人口が増加している中、市長や議員の活動内容もそれに応じて、多岐にわたっているというような理由もあるようだ。
- 現実的に地方の議員はなり手がいない。（報酬を上げることは）投資としての1つの方法で、将来の発展に必要だと思う。特別職に活力を与えることも必要なのではないか。
- 報酬の引き上げは理解するが、やはり財政問題とは切り離せないのではないか。今後どのような財政見通しなのか知りたい。そういったことを踏まえ総合的に判断すべきではないか。
- 知り合いの他の自治体の議員に聞いてみたが、報酬の額で議員をしているような人はいなかった。報酬を5万円上げたからといって議員をしたい人が増えるのかは疑問である。総合的な視点が必要だ。
- 特別職の報酬は仕事・活動の対価であるが、どういう仕事をしているのかが重要である。しかし財政が苦しければ無い袖は振れないのも事実である。
- 議員報酬は上げればよいと思う。上げたから来るものではないと思うが、今は夢がない。議員のなり手の間口を広げることも必要なのではないか。市を良くしたい、政治に興味を持つように報酬を上げる。期待をしている気持ちを表すことが大事だ。

- 政治に触れる機会を増やし、自分の意見が政治にかかわれば関心がうまれる。教育の中で、政治に触れる機会を設けることを答申に入れることは出来るのか。
- ➡ 諮問事項以外でも、その他という位置づけで意見を述べることは可能である。
- 報酬をどのようにするかということよりも、政務活動費をもう少し手厚くしてあげ、議員の活動の後押しをしてあげるほうが理解を得やすいのではないか。
- お金ではなく市を良くしようとする気持ちが大事である。この報酬で自分がどこまでの仕事ができるのかを考えてほしい。私たちに決めてくれと言うのも無責任だ。
- 前回の選挙は無投票だった。議員定数16人になっても次もあやしいのではないか。さらに定数を減らして報酬を上げるのはありかと思う。
報酬は高い方が良いだろうが、物価上昇で人件費がどの程度上がるか、上がると市財政の影響がどのくらいあるのか。全体の数字を見て慎重にする必要がある。